



自分たちの生活を考える機会へ（6月 平和集会を通して）

今年は戦後80年ということで、様々なメディアや各現場において平和の大切さを子ども達に伝える取り組みがなされていると思います。本園でも、子ども達の発達年齢に合わせた内容を考え平和集会を実施しました。自分たちの生活の中で、自分のことだけではなく共に生活する仲間がいることをイメージできるよう手遊びを通した素話【大の仲良しの〇〇さんと□□さんがけんかをしてしまいました。2人は心が揺れながらも、なかなか仲直りに至らず、ようやく数日ぶりに一緒に遊ぶことができました。】というような内容の話や、実際に園児を話題にあげた【嬉しい時ってどんな時ですか？】という話をしてみました。

また、新聞・ニュースの記事や、はごろも小学校での「平和集会（下の写真）」の紹介から、大人だけでなく子どもも考えることも必要であることを伝えました。

集会の後、「ひいばあちゃんが戦争の中逃げた話聞いたよ」「お兄ちゃんがユーチューブで戦争のこと調べていたのを見た」というようなことを伝える子や展示資料に関心をもち集まる子の姿がありました。

「平和ってこういうことかも…」と子ども達が自分の中で感じ、今後の生活の中で少しずつ変化が見られてくるといいなと考えます。



掲示したホワイトボードの様々な情報に関心をもつ子ども達の姿



保育参観について

保育参観は、子どもたちの普段の生活や遊びの様子を保護者の皆さまにご覧いただく大切な機会と考え、運動会などの行事も含め、なるべく毎月1回の開催を目指しています。お仕事などのご都合によりご参加が難しい場合は、次回以降にご都合を合わせてお越しただければ幸いです。なお、園だよりも記載のとおり、7月の保育参観は11日（金）に予定しております。この時期の子どもたちの姿から、2学期以降の成長のつながりをイメージしていただくのも興味深いかと思います。

また、本園の教育課程『幼児の発達の道すじ』に関する資料（別紙）も添付しますので、ぜひご参考になさってください。



サイパン戦争体験を聞く

宜野湾・はごろも小 天願校長、母と講話

【宜野湾】宜野湾市立はごろも小学校（天願直光校長）は16日、慰霊の日に向けた平和学習を同校で開催した。サイパン島に生まれ、幼少期に地上戦を体験した天願校長の母・安子さん（85）＝うるま市一の戦争体験を紹介した。4～6年生の児童らが聞き入った。

天願校長は、安子さん家族が、当時多くの住民が身投げした最北端の崖「マッピー岬（通称パンサイクリフ）」に追い込まれ飛び込む寸前までいった経験を説明した。

天願校長は5月に体験を取って「南洋群島慰霊と交流の旅」に参加し、改めて母から命のバ

トンをつなげたことを感じた。「誰の命も当然お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんがいれば全部つながっている。だから言葉で人を傷つけることは、その人だけではなく、すべての人につながっていくことと同じだ」と説明し、周囲と仲良くすることの大切さを説いた。

同席した安さんは「お友達と仲良くしてほしい」と話した。

講話を聞いた黒瀬佑真さんは「安さんの体験は今では考えられないほど怖い。僕は友達と仲良くしていきたい」と感想を述べた。（梅田正寛）

園長先生の平和学習の記事が6月20日の琉球新報に掲載されました。